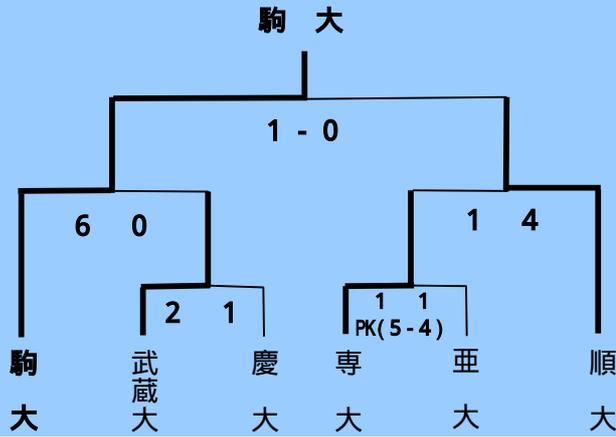


総理大臣杯・関東第2代表決定戦トーナメント表



ようやく、昨年のリベンジをする季節がやっていった。7月2日に開幕する総理大臣杯。今年の駒大は4年ぶりに「王者」としてではなく、「挑戦者」として臨む。

総理大臣杯出場を決めた関東第2代表決定戦・順大戦の直後、選手たちからは口々に「優勝を目指す」、「勝ちに行く」という言葉が聞かれた。もちろん昨年、4連覇という偉業を達成できなかった無念。今年こそ大学サッカー三冠を手中に収めるために出た決意の言葉であろう。

今大会の初戦は北海道代表の札幌学院大。初出場の相手だけに負けることは許されない。2回戦では立命大との対戦が予想される。同ブロックでライバルとなるであろう関西の雄・関大。前大会の優勝校であり、昨年のインカレ・準決勝でも苦しめられた。また、2回戦までは18時だった試合開始時間も準決勝では15時40分と一気に早まることは駒大にとって不安要素のひとつである。

逆のブロックを見ると流通経大、福岡大、桃山学院大、早大と強豪校が集まっただけに、どの大学が決勝に駒を進めてきても不思議ではない。

トーナメント戦は勢いがものを言う。初戦の札幌学院大戦をいい形で勝つことができれば、この大会を制覇することは難しいことではないはずだ。

前回大会・準々決勝プレイバック 駒大3-4早大



4連覇を目指し大会に臨んだ駒大だが、当時関東2部校の早大と対戦。筑城の得点などで、優位に試合を進めていくも前半で同点に追いつかれてしまう。後半開始直後に追加点を奪うも60分、87分と立て続けに失点し準々決勝で敗退した。写真は試合終了と共に崩れ落ちた駒大イレブン

(撮影・野澤俊介)

いざ、総理大臣杯へ!!

前回大会王者・関大



第29回総理大臣杯は関西第1代表の関西大学が栄光を手にした。決勝戦は早大との対戦を3-2で関大が勝利し、初の大皇帝杯制覇。彼らにとって何物にも変えがたい勝利となったに違いない。今大会は駒大と同ブロック。互いに勝ち進めば、準決勝で対戦することとなる。



[左] 早大・司令塔の兵藤。大学屈指の技術を持つMF。予選でも2試合で1得点1アシストと好調。前回大会の対戦では2得点を奪われた。



[右] 流通経大エースの難波。プロ経験を持つという異色の選手。彼の活躍もあり、チームもリーグ戦を首位で折り返している。流通経大がライバルとなるのは間違いない。